

< The first public exhibition >

Photo book of the unknown real Cameroon

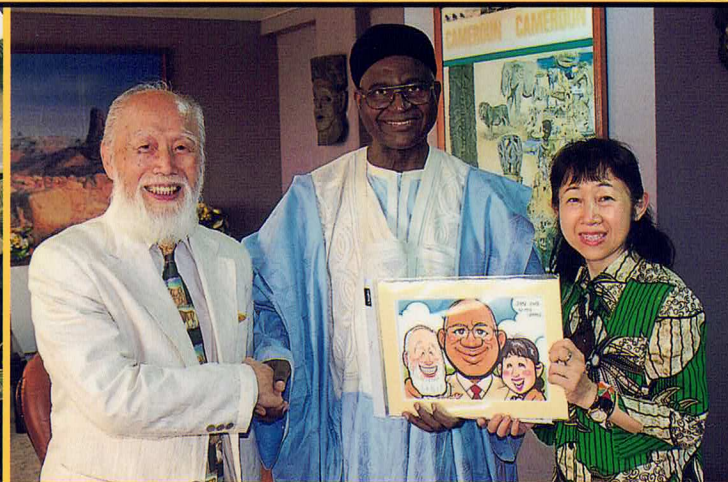
(Photo by Michio & Masayo Hiraiwa - only one father and daughter wildlife photographer in the world)

# 知られざるカメルーンの素顔

< 世界で唯一の動物写真家・平岩道夫&雅代父娘が現地で特写 >



実ったバナナの房  
A ripen bunch of bananas



ベロー B. マイガリ 国務・観光・レジャー大臣と平岩父娘  
H.E. Bello B. Maigari, the Minister of State, the Minister of Tourism and Leisure and the Hiraiwas



緑のコーヒーの実  
Green coffee berries



ピエール・ゼンゲ駐日カメルーン大使と平岩父娘  
H.E. Dr. Pierre Ndzengue, Ambassador of Cameroon for Japan and the Hiraiwas

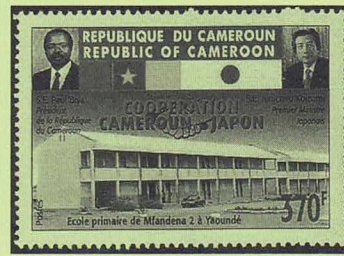
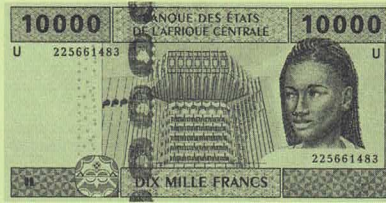


美しいハイビスカス  
A Beautiful hibiscus

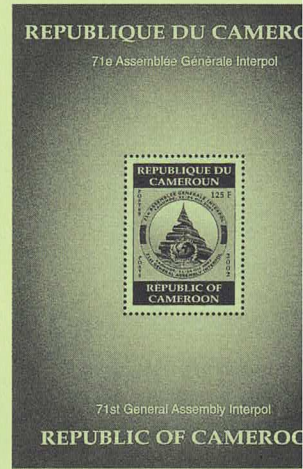
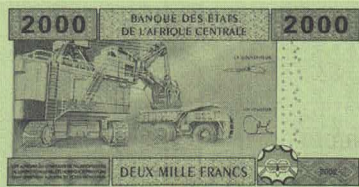


新井勉在カメルーン日本国大使館特命全権大使と平岩父娘  
H.E. Mr. Tsutomu Arai, Ambassador of Japan for Cameroon and the Hiraiwas

# 《カメルーンの紙幣と切手の一部を紹介します》



カメルーンのビヤ大統領（左上）と一緒に描かれています。



## <駐日カメルーン大使からのメッセージ>

(英文)

REPUBLIQUE DU CAMEROUN  
Paix - Travail - Patrie  
AMBASSADE DE LA REPUBLIQUE DU  
CAMEROUN AU JAPON



REPUBLIC OF CAMEROON  
Peace - Work - Fatherland  
EMBASSY OF THE REPUBLIC OF  
CAMEROON IN JAPAN

Dear Readers,

It is our great pleasure to have an opportunity to introduce to you "Beauty and Charm of Cameroon".

Mr. Michio HIRAIWA and Ms. Masayo HIRAIWA, Tourism Goodwill Ambassadors of Kenya are well known as a father and daughter photographer team who have been making an important contribution to the promotion of African Tourism for over forty years with a lot of passion and love. It is indeed amazing that Mr. HIRAIWA has visited Kenya 150 times and Tanzania, 80 times since 1972.

Trusting their wonderful experience and knowledge of Africa, we therefore decided to invite the HIRAIWA team to Cameroon in January 2013 for twenty days, to discover the country from North to South and East to West. Marveled by the beauty of my country, they took a large number of photos in Cameroon featuring nature, fauna, flora, landscape, people, culture etc.

I would like in this regard, to express on behalf of the Government of Cameroon, our sincere thanks to them for making this beautiful photo book which gives you a synopsis of the real and untouched "Beauty and Charm of Cameroon", a country described as "Africa in Miniature" due to its extensive diversity.

After this "Picture trip" to Cameroon, I believe that many Japanese will become more interested in my country and understand us better. It is also my wish that it will enable them to further promote friendship between Japan and Cameroon in the future.

As "Seeing is believing", we are looking forward very much to welcoming you in Cameroon.

Sincerely Yours,

H.E. Dr. Pierre NDZENGUE  
Ambassador of Cameroon to Japan

(仏文)

REPUBLIQUE DU CAMEROUN  
Paix - Travail - Patrie  
AMBASSADE DE LA REPUBLIQUE DU  
CAMEROUN AU JAPON



REPUBLIC OF CAMEROON  
Peace - Work - Fatherland  
EMBASSY OF THE REPUBLIC OF  
CAMEROON IN JAPAN

Chers Lecteurs,

Il m'est fort agréable de vous présenter "Charme et Beauté du Cameroun".

Monsieur Michio HIRAIWA et sa fille Madame Masayo HIRAIWA, Ambassadeurs de bonne volonté du Tourisme au Kenya sont une équipe de photographes de renommée internationale qui depuis 40 ans ont grandement contribué à la promotion du Tourisme Africain au Japon. En effet, depuis 1972, Monsieur HIRAIWA a visité 150 fois le Kenya et 80 fois la Tanzanie.

C'est fort de cette grande expérience et connaissance profonde de l'Afrique qu'en Janvier 2013, nous avons invité la famille HIRAIWA à visiter le Cameroun pendant vingt jours, du Nord au Sud et d'Est en Ouest. Emmerveillés par la beauté riche et contrastée du pays, ils ont ainsi pris un volume important de photos exposant la nature, la faune, la flore, les paysages, les personnes, et la culture du Cameroun.

Je voudrais ainsi, au nom de mon Gouvernement, remercier la Famille HIRAIWA pour leur effort rassemblé en ce Livret de photos sur le Cameroun qui vous donne un bel aperçu des « Charmes et Beautés du Cameroun », « l'Afrique en Miniature ».

Après ce premier « voyage en photos » au Cameroun, je veux espérer que Votre intérêt pour le Cameroun sera accru et que vous aurez une meilleure connaissance de mon pays, de sa culture et de ses paysages. J'espère également que cet effort contribuera à promouvoir les liens d'Amitié entre le Japon et le Cameroun pour l'avenir.

S'il est généralement admis que « Voir c'est Croire », Je vous invite très chaleureusement à visiter le Cameroun.

S.E. Dr. Pierre NDZENGUE  
Ambassadeur du Cameroun au Japon

## 『知られざるカメルーンの素顔』 発刊に際して

カメルーンという国名を聞いて、日本のみなさんは何をイメージされますか？ 2002年のサッカーワールドカップの際、大分県中津江村の坂本休村長（現在は中津江村地球財団理事長）の肝入りで、キャンプを行ったカメルーン代表チームのことだけでしょうか？

アフリカ54カ国のうちのひとつ、カメルーンは、アフリカ大陸を横切る赤道のやや北にあり、国土の北はサハラ砂漠に、南は大西洋のギニア湾に面した共和国。国土面積は475,440平方キロメートル、日本のおよそ1.3倍の大きさです。周囲をナイジェリア、チャド、中央アフリカ、コンゴ民主共和国、コンゴ共和国、ガボン、赤道ギニアに囲まれています。カメルーンの地形は縦長の三角形のような形のため、海、サバンナ、丘陵、熱帯雨林など、実に変化に富んでいます。そのためカメルーンは“アフリカの縮図”と呼ばれ、10州に分かれています。植民地時代の名残りで、そのうちの8州では現在もフランス語が、他の2州では英語が話されており、カメルーンの公用語はフランス語と英語です。

「日本ではまだあまり知られていない“カメルーンの素顔”を、ぜひ平岩さん父娘にいらしていただき、全州を撮影して日本のみなさんにご紹介くださいませんか？」という、ピエール・ゼンゲ駐日カメルーン大使の熱意が実を結び、今年(2013年)1月にカメルーン政府のお招きを受け、20日間にわたって同国を訪れ、思う存分撮影してきました。

美しい海岸や豊かな農作物、幻想的な山の風景、森林に暮らすゴリラ、王様が治めている“王国”、友好的なカメルーンの人たちなどを、この写真集でお楽しみくださり、カメルーンという国を少しでも理解していただくことができれば、うれしい限りです。

今回の取材に際し、現地でたいへんお世話になりましたマイガリ国務大臣兼観光レジャー大臣を始め、カメルーン観光レジャー省のムベ・サミュエル局長、また7,000キロメートルにわたる国内移動の全行程を同行してくださいましたカメルーン観光レジャー省のジュディ・アノック部長と、ベテランガイドのディジィ・ダバラさんに、心から“Merci beaucoup” = メルシー ボクー（どうもありがとうございます）と。さらにヤウンデの日本大使館ならびに大使公邸で、私ども平岩父娘を暖くお迎えくださいました新井勉大使と荻野直美二等書記官のおふたりにも、心からお礼と感謝を申しあげます。

2013年4月5日

平岩 道夫 & 雅代 (ケニア政府任命  
ケニア観光親善大使)

This photo book of the unknown real Cameroon is made by photos of Michio and Masayo Hiraiwa-only one father and daughter wildlife photographer team in the world. (Tourism Goodwill Ambassador of Kenya)

〈付記〉この写真集に収録した写真は、1962年にPENTAX SVを購入して以来、SP…67…645…LX…Z1…K-5…K20…K-x…K-30…Pentax Q…Q10に至るまで、50年間にわたり愛用しているペンタックスカメラとレンズ(50数台)のうち、K-30、K-5、K-x、Q10の4台を中心に撮影したものです。これらすべてのカメラとレンズは、現在も東京・杉並の“平岩ボレボレギャラリー”(入場無料=電話03-3316-8070)で保存・展示しております。



## 目 次

発刊に際して……………	1	[ホテル・イロンバ]はクリビビーチにあるカメルーン	
平岩父娘がベロ ボウバ マイガリ国務・観光レジャー		屈指の快適なホテル……………	25
大臣に招かれて……………	3	全長1キロメートル 深さ20メートルの“コラ峡谷” …	26
首都ヤウンデ(中央州)は標高800メートルの丘の町		カメルーンでは伝統的な皮なめしの工程も特写!	
町のシンボルは丘の上に建てられた統一記念塔……………	4	極北州の町マルアでなくては見られない <sup>⑧</sup> の場所……………	27
フンバンのバムーン王国の王宮でのあいさつ風景……………	5	山から海へ注ぎ込むロベ滝と食用の“海亀”……………	28
カメルーンの絶景“ルムシキの奇岩”は世界遺産に……………	6	カメルーンの子どもたちはサッカーに夢中……………	29
ウンボット(西部州)の町で見かけた青空市場……………	7	極北州にある静かなダム湖で魚釣りを楽しむ少年たち	
カメルーンのすべてがわかる文明博物館を訪問……………	8	湖を照らす黄金色の夕日と空を赤く染める夕焼に感激…	30
おだやかな流れのニヨン川と緑豊かなエボゴの森……………	9	カメルーン最大の貿易港と空港があるドウアラは商業	
カメルーンには豊かな農作物がこんなにいっぱい! …	10	都市として有名……………	31
コーヒーや紅茶畑から椰子の油まで豊富……………	11	極北州の首都マルアにある中央市場と民芸品センター…	32
極北州の州都マルアの町にある鍛冶屋集団の作業所を訪ねて		マルア中央市場では“市民の胃袋”から日用品までなん	
ナイフ、バケツ、鍋、七輪などすべて手作りで即売も大人気! …	12	でも揃う……………	33
カメルーンでは荷物を頭の上にのせて運ぶのが普通…	13	カメルーンで出会った人たちとの記念撮影……………	34~35
カラバシュ(ヒョウタン)の帽子をかぶる女性たち		カメルーン各地で平岩父娘が滞在したホテルを紹介	
極北州の町“トゥルー”マーケットでの“珍風景”……………	14	……………	36~37
大西洋に面した港町で保養地として有名なリンベにあ		世界で最も身長が低いことで知られる“ピグミー”の村	
る魚市場……………	15	を訪ねて……………	38
700年の歴史がある北西州の有名な“バファー王国”を紹介…	16	新井勉がカメルーン日本大使から到着早々貴重なアド	
カメルーンでなんと“ファッションショー”に遭遇……………	17	バイスを受ける……………	39
カメルーンには多くの滝がある……………	18	ピエール・ゼンゲ駐日カメルーン大使から平岩父娘に	
森林に住む野生のゴリラはカメルーンのシンボル……………	19	表彰状プレゼント……………	40
平岩父娘もカメルーン衣裳を現地で注文		日本最初の平岩父娘撮影による“カメルーンの素顔”	
まずは色鮮やかな生地選びからスタート……………	20	写真展16日間毎日大盛況 ……	41~43
カメルーンの一夫多妻の村“バンダルゲレ”を訪問……………	21	カメルーンでの撮影でもK-30やQ10が大活躍	
チャドやナイジェリアとの国境に近いワザ国立公園で		[平岩アフリカツアー]参加者もペンタックスファンに…	44
のサファリ……………	22	平岩父娘がカメルーン各地で撮影したスナップ写真の	
サバンナと森がミックスされたベヌエ国立公園でも…	22	一部を紹介……………	45
カメルーン北部州を走る“リングロード”(環状道路)近くの		写真展会場を提供くださっている岩田社長親子に感謝! …	46
新しいリゾート宿泊施設“サドル・ヒル・ランチ”での結婚式…	23	内容の濃さは日本一! 平岩アフリカツアーを紹介…	47
メファー国立公園内の霊長類保護区を見学……………	24	今回の取材に際してご協力いただいたカメルーン観光	
カメルーンではバイクタクシーが国民の足! ……	24	レジャー省の皆様にご心からお礼申し上げます……………	48
衣類も体も洗濯はもっぱら川を利用するのが普通……………	24	平岩父娘撮影による“カメルーンの素顔”写真展開催…	48

# 平岩父娘がベロ・ボウバ・マイガリ国務・観光レジャー大臣に招かれて



ヤウンデのカメルーン政府観光レジャー省



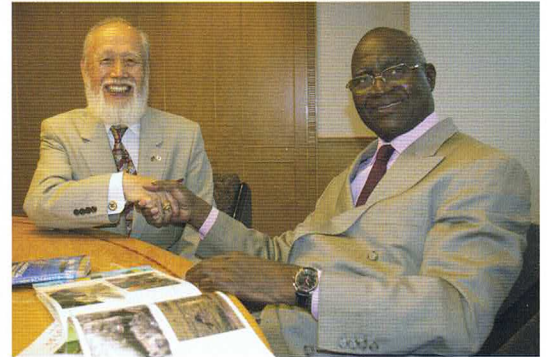
カメルーン北部にあるルムシキの美しい風景をバックに立つベロ・ボウバ・マイガリ国務・観光レジャー大臣(中央)と平岩父娘=ヤウンデの観光レジャー省大臣室で



観光レジャー省のロビーに掲示された日本での平岩父娘の写真を指さす平岩雅代



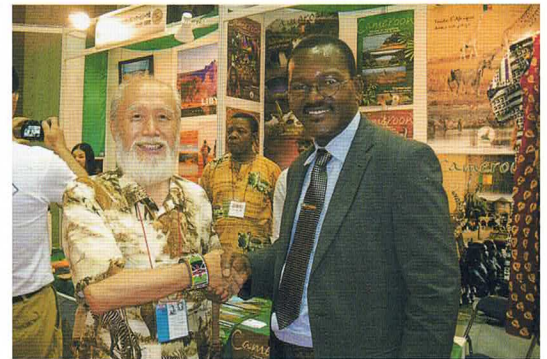
カメルーンのシンボルとなっているライオンのブロンズ像と平岩道夫。ロビー中央に置かれているのが印象的



ベロ・ボウバ・マイガリ大臣と握手をする平岩道夫=東京のホテルニューオータニで



ベロ・ボウバ・マイガリ大臣(中央)、ムベ・サミュエル観光局長と平岩父娘=東京のホテルニューオータニで



ムベ・サミュエル観光局長(右)と平岩道夫=東京の世界旅行博覧会場で

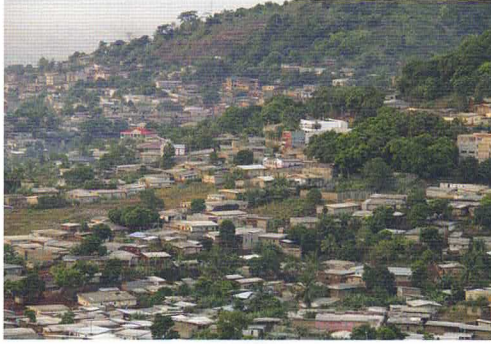
## 首都ヤウンデ(中央州)は標高800メートルの丘の町

### 町のシンボルは丘の上に建てられた統一記念塔

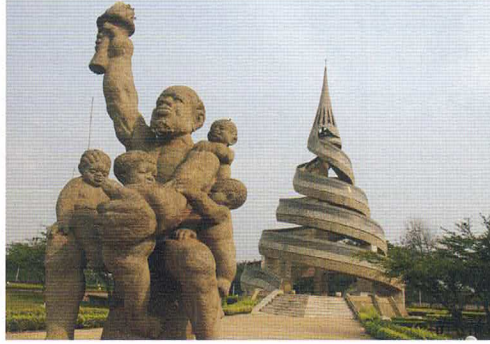
首都ヤウンデは、カメルーンにある10の州のうちのひとつ、中央州の州都であり、行政の中心となっている。大西洋からは200キロメートルほどの内陸にある高原の町(海拔700~1,000メートル)だ。

北緯5度という赤道に近いが、標高が高いため夜は涼しく、快適に過ごすことができる。

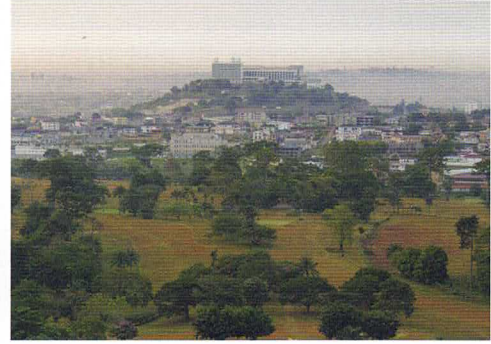
ヤウンデには7つの丘があり、市内の道路は起伏に富んでいる。



丘の上までズラリと続くヤウンデの家並み



1972年5月20日に建てられた石像と統一記念塔



丘の上にそびえる建物は大統領府の豪邸



1939年に建てられた郵便・電信・電話局



統一記念塔の屋上から望むヤウンデ市内



マネキンを外に並べるのがヤウンデ流?



ヤウンデ市内には近代的なビール工場も見られる



市内にある有名な大聖堂で祈る子どもたち

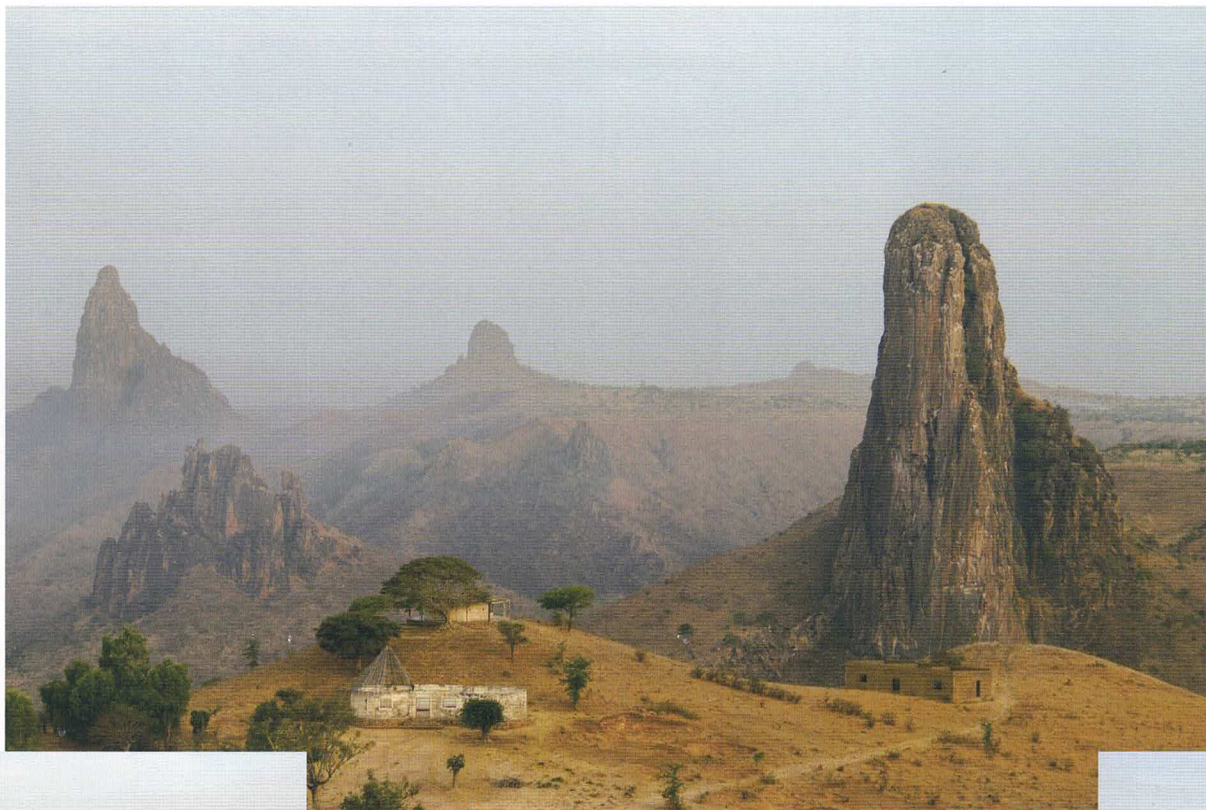


市民の足は黄色のタクシーかバイクタクシー

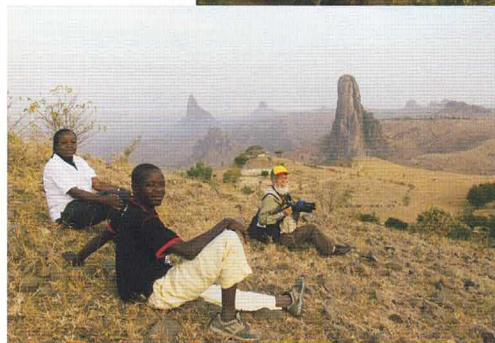
## カメルーンの絶景“ルムシキの奇岩”は世界遺産に

カメルーン北部州のマングラ山地には、世界遺産に指定されている奇岩の風景が広がっている。フランスの作家アンドレ・ジイドが「これこそ世界で最も美しい風景だ」と絶賛したといわれているほど——。

ルムシキの岩山は、高さが800メートルから1,000メートルあり、長年にわたる雨や風による風化によって作られた。夕日に照らされるルムシキの岩山の姿や、朝日を浴びて浮び上がる様子は、息をのむような美しさだった。



山の上から眺めるルムシキの幻想的な岩山



山の上で日の出を待つ平岩道夫(右)とガイドたち



ルムシキのホテルでの朝最高——と平岩雅代



## カメルーンのすべてがわかる文明博物館を訪問

カメルーンの西部州にあるデチャンの町は、海拔1,400メートルの高原にドイツ人によって1903年に作られた。“山の保養地”“大学の町”としても知られている。第二次世界大戦中の1942年には、当時カメルーンで暮らしていたヨーロッパの人々のための保養施設“センター・クリマティック・デチャン”も建てられた。ここは現在も宿泊施設として、使用されている。

2010年11月20日に開館した“文明博物館”では、カメルーンの歴史はもとより、各地方に伝わる文化などが、豊富な写真や彫刻、模型などと共に紹介されている。中には17～18世紀にカメルーンから、ヨーロッパやアメリカ大陸に連れて

いかれた奴隷たちに実際使用された腕輪などの展示もあり、カメルーンの悲しい歴史の一部も偲ばれる。また本館に隣接するミュージアムショップでは、カメルーンで生産されているコーヒー、紅茶を始め、ドライフルーツ、蜂蜜、さまざまなスパイスや絵画、民芸品などを購入することもできる。

通常は撮影が禁止されているこの博物館内も、今回はカメルーン政府の特別許可により行うことができた。同博物館の学芸員として活躍しているパトリックさん、受付のシルビーさん(写真右下)も「日本の皆さんもぜひ私たちの国、カメルーンをもっと理解してくださいとうれしいです」と笑顔で話していた。



## おだやかな流れのニヨン川と緑豊かなエボゴの森

カメルーン的首都ヤウンデから南へ約60キロメートルにあるエボゴ一帯は、おだやかな流れのニヨン川をカヌーで下り、樹齢300年以上、高さ84メートル、直径8メートルもの“聖なる木”の森を訪れる“エコ・ツーリズム”を体験できる場所として、観光客に知られている。

ニヨン川沿いには、観光レジャー省が建築中のバンガロー形式の宿泊施設もある。また舟付き場の前にあるレストランでは、川魚のグリルを始め、カメルーンで一般的な加熱用バナナのフライなどを味わうことができる。



森の中にそびえる聖なる木は高さ84メートルもある



エボゴの看板にはカヌーや木のイラストも描かれている



カヌーを利用する観光客を待つエボゴの村人たち



ニヨン川を見おろす高台に建てられたバンガロー形式の宿泊施設

### ——まるで鏡のように静かな水面——



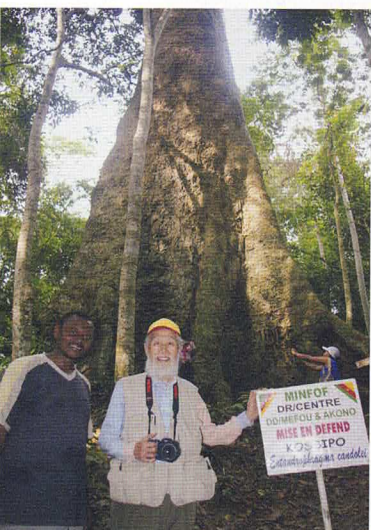
ニヨン川をカヌーに乗って下ってゆく平岩雅代(右)



川沿いの景色をまるで鏡のように映し出す静かな水面



カヌーの上から緑が濃い美しい景色を撮影する平岩道夫(左)



案内人と並んで“聖なる木”の前に立つ平岩道夫(左)

### <川沿いのレストランでは食事也可以る>



川からの風が心地良いレストランでは魚料理を楽しむことができる

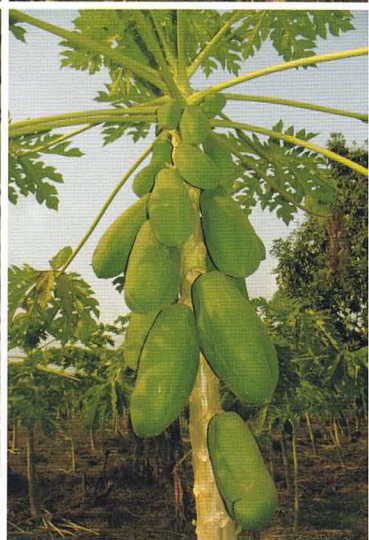


ニヨン川で漁れる新鮮な白身魚のグリルはくせがなくおいしい



魚やバナナのフライ、フライドポテト、コーンサラダなどのごちそうを前に笑顔の女性たち

## カメルーンには豊かな農作物がこんなにいっぱい！



ゴムの木から樹液を採る

バナナのプランテーション

広大なパイナップル畑

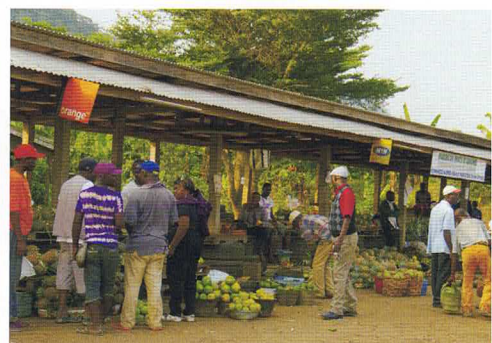
大きなパパイヤの実



さとうきびを売り歩く少年たち



沿道で新鮮な西瓜を売る女性



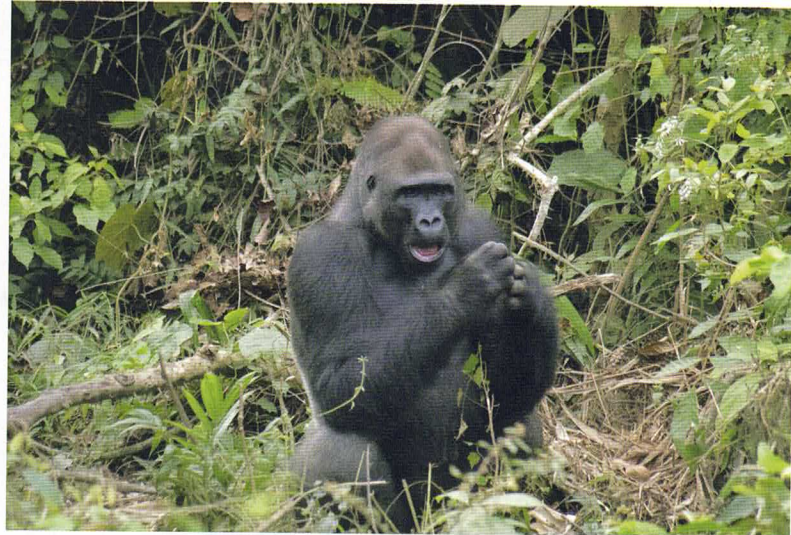
多くの人たちで賑わう果物市場

## 森林に住む野生のゴリラはカメルーンのシンボル

カメルーン東部州にあるロベケ国立公園を始め、カメルーンの熱帯雨林には、最大の霊長類であるゴリラが暮らしている。  
体長2メートル、体重200キログラムにも達するオスのゴ

リラは、成獣になると、背中中の毛が白く変わり、“シルバーバック”と呼ばれ、群れを率いて生活している。

ドイツやフランスなどから、野生のゴリラを見たさに、カメルーンを訪れる観光客も少なくないそうだ。



## 平岩父娘もカメルーン衣裳を現地で注文

### まずは色鮮やかな生地選びからスタート

カメルーンの女性は実に“着道楽”。子どもから大人まで、カラフルな木綿地を自分の好みのデザインでドレスに仕立ててもらい、日常着として楽しんでいる。現地で“ラッパー”(フランス語で“パイン”)と呼ばれている生地は、おもにカメルーン北部州で栽培されている綿花から作られる。

今回のカメルーン訪問中、極北州の町マルアにブティックを開いて17年になるといふ、人気女性デザイナーのマーシー・ダマリス・ダバラ夫人に、幸運にも出会うことができた。そこで日本人の平岩父娘にもふさわしい伝統的なカメルーンドレスを、縫ってもらった。出来映えはいかが？ 着心地満足ですよ。



店内で客の注文を聞いてドレスを仕立てる笑顔のダバラ夫人



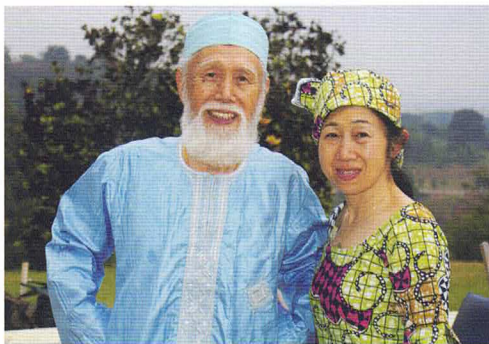
ボディラインをぐっと強調するカメルーンドレスの採寸は細かい



男性の服も胸囲や肩幅などをきちんと採寸して作られる



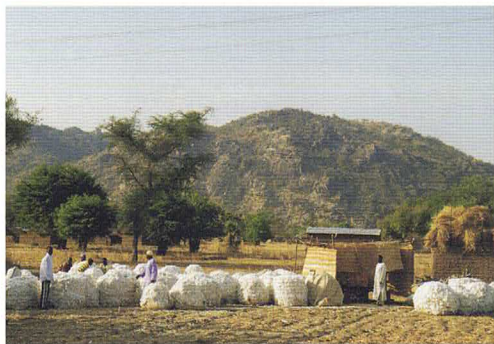
店内の壁に貼られているのはドレスの最新デザイン見本写真



完成したカメルーンドレスに身を包んだ平岩道夫&雅代父娘



仕立ての第一歩は好みの生地選びから始まる



集められた真っ白い綿花が出荷を待つ珍しい風景もバチリ!



さまざまな色とデザインの男性用帽子が並ぶ店先



完成したカメルーンドレスを着て満足気な平岩道夫

## 新井勉在カメルーン日本大使から到着早々貴重なアドバイスを受ける



左から新井大使、平岩道夫、荻野直美二等書記官＝大使館で(2013年1月16日)



カメルーンの伝統的な椅子に座る新井大使を中央に平岩父娘(左右)＝大使館で



左から新井大使、荻野二等書記官、カメルーン政府観光レジャー省のアノック部長、平岩父娘＝大使公邸で

カメルーン的首都ヤウンデに到着して早々、新井勉日本大使のお招きを受けて、日本大使館を訪問し、貴重なアドバイスをいただいた。

「私は一昨年(2011年)10月からカメルーンに赴任していますが、私の経験から申し上げて、この国にはたいへん興味深い伝統や文化が数多く残っています。また美しいビーチを始め、豊かな自然にも恵まれています。しかしながら国内の道路事情や宿泊施設などのインフラに関しては、まだまだこれから——というのが、正直な感想です。

私は1975年に初めてアフリカ10カ国を旅しました。翌年の1976年には、ケニアのアンボセリ、マサイマラ、そしてタンザニアのセレンゲティ、ンゴロンゴロ、レイク・マニヤラなどの有名な動物保護区を、ケニア人のガイドと共にジープで駆け巡りました。そこはまさに自然の楽園でした。

1978年、外務省に入省し、1991年前後にガーナの左隣の象牙海岸共和国(現コートジボワール)の日本大使館で勤務した経験もあります。1992年のニジェール出張を始め、それ以外にも、アフリカ各国を公私にわたって訪れていますが、カメルーンは日本人にとって、まだまだ知られていない国だと感じています。

日本の政府開発援助(ODA)の額が大きかった1990年代中頃までは、カメルーンにJETROの駐在事務所があり、日本を代表する大手商社(数社)も日本から駐在員を派遣させていましたが、残念ながら現在はすべて撤退し、日本人は大使館関係者と、青年海外協力隊員として活動する人たち、そしてJICAの関係者くらいになってしまいました。

カメルーンで生活をしていて、物理的な不便さ、不自由さを実感します。私は大使として赴任していますので、一般の人に比べればかなり恵まれています。

それでも、頭髪を洗う水がない、お湯が出ない、トイレが使えない、しばしば停電し、そのたびにパソコンもテレビも切れる。病気になっても日本のように信頼できる医者にかかれない、街にはほとんど娯楽と呼ばれるものがない——快適な映画館、スポーツジム、しゃれたショッピングセンター、散歩する公園など——の日本で当たり前には享受される豊かさ、安心感がないのが実情です。そして何事も思うように迅速に進まない、指示通りに動いてくれない、など精神的・心理的な閉塞感のようなものがあり、トラブルも笑ってごまかすようでない、この地で肯定的に生きることは難しいのです。

話は変わりますが、幸いなことにカメルーンの人たちは、歌や踊りが大好きです。そこで、昨年(2012年)11月17日に私が企画し、日本大使館が主催して、「J-POP祭」を開催しました。ヤウンデのフランス文化センターを会場に、超満員の観客が集まる中、コンサート形式で日本のヒット曲(「見上げてごらん夜の星を」、「亜麻色の髪の乙女」など)10数曲を現地のプロミュージシャンと共に演奏しました。私もバンドメンバーの一員として、ドラムで数曲参加しましたところ、話題性もあって、当地の新聞各紙に写真入りで報道されたほか、国営テレビでもこのコンサートの模様が放送され、日本の文化交流行事としてもお陰様で大成功を収めることができました。

平岩さん父娘が今回のカメルーン訪問の旅で、この国の魅力に触れ、帰国後の写真展や写真集などを通じて、日本人にカメルーンをご紹介いただけましたことを、大いに期待しています」とは、新井大使のお話でした。

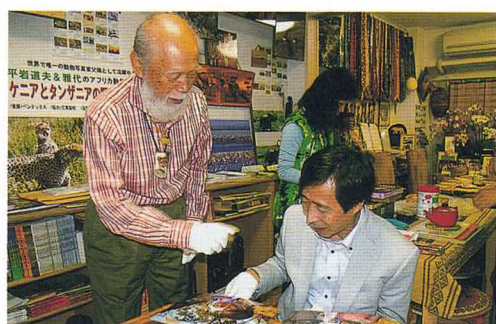
※今回の旅では、新井大使が執筆された「インサイド・アフリカ——カメルーン報告」(2012年11月)が大いに参考になり、改めて感謝申し上げます次第です。



カメルーンから一時帰国された新井大使とみどり夫人が揃って「平岩ボレボレギャラリー」へ来訪



新井大使ご夫妻(右)と平岩ファミリー(左から寿美代、道代、道夫、雅代)



平岩父娘がカメルーンで撮影した写真を興味深くご覧になる新井大使＝この3枚は2013年3月20日「平岩ボレボレギャラリー」で

ピエール・ゼンゲ駐日カメルーン大使が平岩父娘に表彰状（2013年4月27日）  
 日本で最初の“平岩父娘撮影によるカメルーンの素顔写真展”会場でプレゼント

<日本語>

<英語>

REPUBLICQUE DU CAMEROUN  
 Paix - Travail - Patrie



REPUBLIC OF CAMEROON  
 Peace - Work - Fatherland

### 表彰状

平岩道夫・雅代両氏はアフリカでの素晴らしい経験を生かし、日本人観光客の旅行先としてカメルーンをPRする事に多大な力を尽くしております。よって、カメルーン共和国大使館を代表し、この表彰状を贈呈致します。

「カメルーン写真展」は賞賛に値し、両氏がカメルーン観光業の未来を確信している事を証明していると言えます。

今後、両国民の間で培われる関係が、実り多く長い協力と友情の「旅」となり、両氏のカメルーン渡航がその始まりとして記憶される事を望みます。


カメルーン共和国政府と国民を代表し、これからも末永く御健勝とご多幸お祈り申し上げます。

平成25年4月27日、東京にて




駐日カメルーン共和国大使  
 ピエール・ゼンゲ

REPUBLICQUE DU CAMEROUN  
 Paix - Travail - Patrie



REPUBLIC OF CAMEROON  
 Peace - Work - Fatherland

### Commendation

On behalf of the Embassy of the Republic of Cameroon, I have great honour to present this Certificate of Commendation to Mr. Michio Hiraiwa and Mrs. Masayo Hiraiwa for investing their tremendous experience of Africa in promoting Cameroon as a tourism destination in Japan.


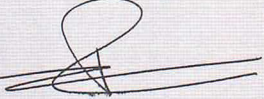
This commendable photo exhibition of Cameroon is testimony of their conviction in the future of the tourism industry of Cameroon.

It is my hope that their trip to Cameroon will be remembered as the first step in a long and very fruitful journey of cooperation and friendship between the people of Cameroon and Japan.

On behalf of the Government and the People of Cameroon, please accept our best wishes for good health, success and happiness in the years to come.

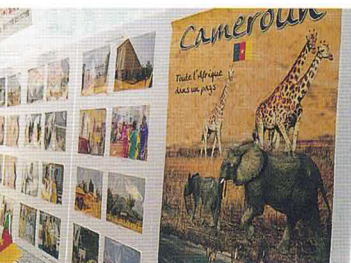
Done in Tokyo, on the 27 April 2013.

Yours Sincerely,

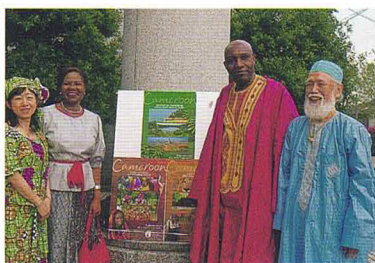



H. E. Dr. Pierre Zengue  
 Ambassador of the Republic of Cameroon  
 Tokyo - Japan

# 平岩父娘撮影の“カメルーンの素顔”写真展会場風景 (2013年 4月27日~5月12日)



カメルーン写真展会場に飾られたポスター(右)、続いて写真と国旗(左下)



カメルーン写真展会場入口のビエール・ゼンゲ駐日大使ご夫妻と平岩道夫&雅代父娘



写真展初日に行われたテープカット風景(大使も平岩父娘もカメルーン衣装で)



笑顔で握手するゼンゲ駐日大使ご夫妻と平岩道夫&雅代父娘



約300枚の写真がズラリと並んだカメルーン写真展会場



英語でカメルーン写真展の喜びをスピーチするゼンゲ駐日大使



ゼンゲ駐日大使から平岩父娘に贈られた日本語と英語の表彰状



平岩道夫の説明を聞きながら展示写真を熱心に見るゼンゲ駐日大使ご夫妻



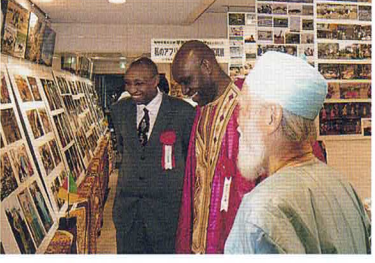
平岩父娘によるカメルーンを中心にしたワークショップに耳を傾ける来場者たち



右から平岩ツアー37回参加の林美恵子さん、娘の吉井喜代さん、孫の吉井志織さん



いつも仲睦まじい益子眞一さん、ひろ子さんご夫妻を紹介する平岩道夫



ゼンゲ駐日カメルーン大使(中)、ケニアのドゥング公使参事官(左)と平岩道夫(手前)



カメルーンの地図や珍しいさまざまな民芸品も人気を集めていた



テープカット後に大使ご夫妻を囲んで参加者一同で記念撮影



杉並区議会の横山えみ議員(右から2人目)、田代美子さん(同4人目)も来場



親睦夕食会には山梨の大木花子さん(後列左)、南小岩の内野モモヨさん(同右)も出席



# 平岩父娘撮影の“カメルーンの素顔”写真展会場風景 (2013年 4月27日~5月12日)



コンドルタクシーの岩田寿社長(中央)に感謝する平岩ファミリー



コンドルタクシーの岩田将克常務(中央)と平岩父娘



東京都議会の松葉多美子議員(右)、青木さちえ元杉並区議(左から2人目)も来場



東京都議会の高倉良生議員ご夫妻(後列右から2・3人目)も来場



はじめ商事の青田敬一さん(右)は外国からのお客様をご案内して来場



カメルーンのシンボルは森林に暮らす野生のゴリラだ(右)



新井勉在カメルーン日本大使夫人(左から2人目)もお嬢さんご夫妻と来場



いつも笑顔でご活躍の渡辺富士雄杉並区議会議員(右から2人目)も来場



展示されたカメルーンの300点にのぼる写真を熱心に見る来場者



藤原一男元杉並区議会議員ご夫妻(中央)も来場、右は“ママ・サファリ”こと林美恵子さん



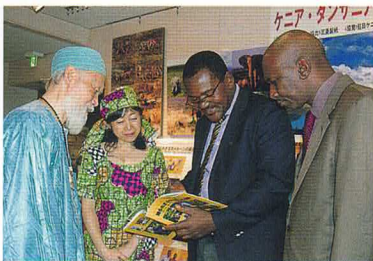
黒河内康元タンザニア大使(左から2人目)、川原口宏之杉並区議会議員(右から2人目)



初めて見るカメルーンの写真は来場者の関心を集め、さまざまな質問が続出



カメルーン観光省からムベ局長(右)、マヌーアジア部長(左から3人目)も来日



写真集を手に大喜びのムベ局長とマヌー部長に説明する平岩父娘



ムベ局長、マヌー部長、カメルーン大使館のカムガ参事官(左から2人目)を迎えて



来日したムベ局長、マヌー部長もおいしい中華料理に大喜び=新宿京王の太新楼で

## 《平岩父娘のプロフィール》



“世界で唯一の動物写真家父娘”として有名な平岩道夫&雅代さん

### 平岩道夫(HIRAIWA MICHIO)

1934年(昭和9年)、名古屋生まれ。同市東海中学校在学中、日本最初のペンフレンド運動団体“郵便友の会”(全国の小、中、高校約3,000校にグループが誕生。会員数約20万人)設立に努力。発祥地「名古屋郵便友の会」初代会長として活躍。(昭和24年6月5日、名古屋の東山動物園で、発会式)東海高校卒業後、明治大学に進学。同大学在学中19歳で『友情は海を越えて』を、読売新聞社から出版。話題を賑わせ、当時の鳩山一郎内閣総理大臣から激励された。日本一の芸能・レジャー雑誌として有名な『平凡』『週刊平凡』『平凡パンチ』編集局記者を経て、日本最初の切手評論家として名乗りをあげ、海外旅行評論家、写真家、著述家としても活躍中。さらにテレビやラジオにも出演しているほか、切手教室、動物教室、海外旅行教室や各種講演会の講師としても著名。海外取材渡航歴は500回を超え、海外旅行ガイドブックやエッセイ集などの出版も100冊を超えている。

ケニア、タンザニアを中心にアフリカへは1年に4回、これまで150回“里帰り”をしており、ゾウやサイ密猟防止のために活躍中の動物監視員に400台もの双眼鏡を贈っているほか、キリマンジャロ山のふもとの子供達のために、「平岩スクール」を完成させ、2002年1月からは幼稚園まで増設。また全国各地のデパートやスーパーを会場に「平岩道夫&雅代のアフリカ動物写真展」を、これまでに300余回開催している。

アフリカ関係の50冊の写真集やエッセイ集の印税をすべてケニア、タンザニアのために寄付し、両国から“日本における民間大使、親善大使”と感謝され、たびたび表彰も受けている。2001年3月、現地訪問100回という記録を樹立した。(2013年2月現在、40年間に150回のケニア訪問となった)

※平岩父娘には2004年2月、「平岩アフリカツアー」100回を記念して、ケニア政府から外国人としては初の“ケニア観光親善大使”の称号が贈られた。

※ユニークな楽しい場所として人気が高まっている東京・杉並の「平岩ボレボレギャラリー」(入場無料)が、2012年10月にはオープン7周年を迎えた。

※平岩父娘の現住所は――

〒166-0011 東京都杉並区梅里2-34-2 電話(03)3312-2753、3316-6234 FAX (03)3312-7558

Only one father and daughter Wildlife Photographer team, and “Tourism Goodwill Ambassador of Kenya”.  
Mr. HIRAIWA MICHIO (born in 1934) and Miss. HIRAIWA MASAYO (born in 1960).  
The HIRAIWAS are well-known as Travel-Writer, Stamp Journalist and Essayist in Japan.  
Address : 2-34-2, Umesato, Suginami-ku, Tokyo 166-0011, Japan  
Phone (03) 3312-2753, 3316-6234, FAX (03) 3312-7558

### 平岩雅代(HIRAIWA MASAYO)

1960年(昭和35年)、東京生まれ。目白学園女子短期大学英語英文科を卒業。父(道夫)の影響で小さい頃からカメラを玩具代わりに育つ。

アフリカへは高校2年の時から毎年出かけ、海外渡航歴は170余回。香港、マカオ、インド、パキスタン、イギリス、イタリア、フランス、ベルギー、オランダ、中国、オーストラリア、パプアニューギニア、アメリカ、アルゼンチン、チリ、南極などへも行っている。

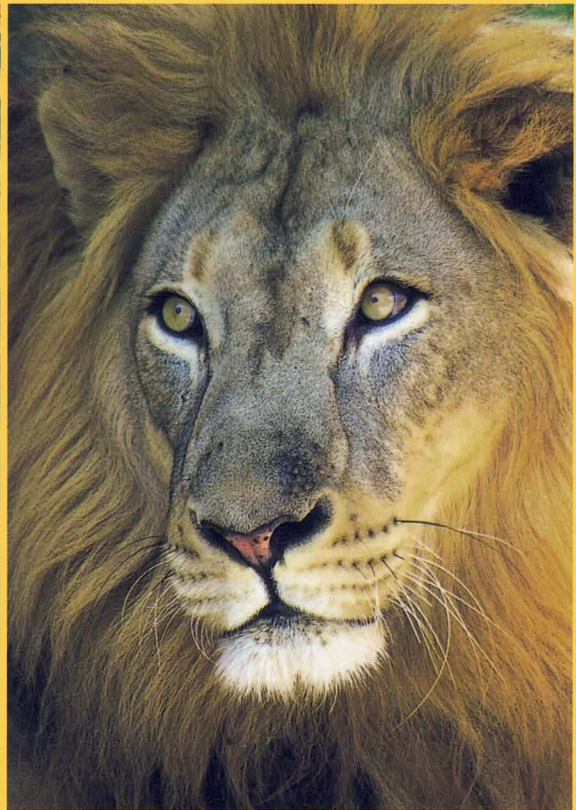
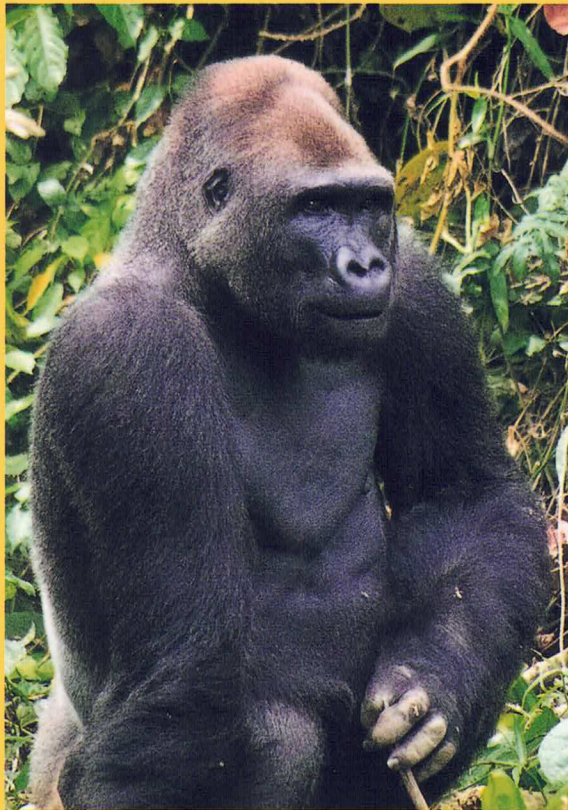
毎年春(2~3月)と夏(7~8月)に実施中のアフリカ・アドベンチャーファミリーツアー(略称=平岩アフリカツアー、講師は平岩道夫、2013年2月で138回を数え、約3,700名が参加)の実行委員として、ケニアとタンザニアへ出かけている。

英語、イタリア語の他に、東アフリカの公用語であるスワヒリ語も話し、短大卒業と同時に日本で最初の女性動物写真家として第一歩を踏み出した。

父娘共著は『まあねえちゃんサバンナをいく』(ジャパンプレスフォト刊・全3冊)、『マイ・ディア・アフリカ』(新峰社刊)、『アフリカン・ファミリー』『アフリカン・ベイビー』(いずれも光琳社出版刊)、『香港レストラン・ショッピング案内』、『パリレストラン・ショッピング案内』(三修社刊)、『香港からニイハオ』、『アフリカからジャンボ』、『イタリアからボンジョルノ』(ミリオン出版刊)、『アフリカボレボレツアー』、『野生の王国』(アートダイジェスト刊)など50冊。トラベルライター、エッセイスト、スタンプジャーナリストとして新聞、雑誌に執筆するほか、専門学校で観光学や旅行企画などの講義も担当。いまや“世界で唯一の動物写真家父娘”として各方面で活躍中で、人気を集めている。各地で開催中の講演会にも、父と共に出席、わかりやすい語りで好評だ。



カメルーン国旗の右が平岩道夫、左が平岩雅代父娘  
Michio & Masayo Hiraiwa with national flag of Cameroon



カメルーンのシンボルといえば、森林に住むゴリラ(左)と、動物の王者といわれているライオン(右)だ  
Gorilla in the forest and Lion "king of animal" are symbol of Cameroon

定価 2,000 円 (本体 1,905円 + 税)